

---

# イクシスLNGプロジェクト 事業説明会

---

**国際石油開発帝石株式会社**

**2012年(平成24年)1月24日**

## ■ イクシスLNGプロジェクトと当社成長戦略

代表取締役社長

北村 俊昭

## ■ イクシスLNGプロジェクトの概要

取締役 常務執行役員 イクシス事業本部長

伊藤 成也

当プレゼンテーションは、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

当プレゼンテーションに掲載される情報(将来予想に関する情報を含む)を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

---

# イクシスLNGプロジェクトと当社成長戦略

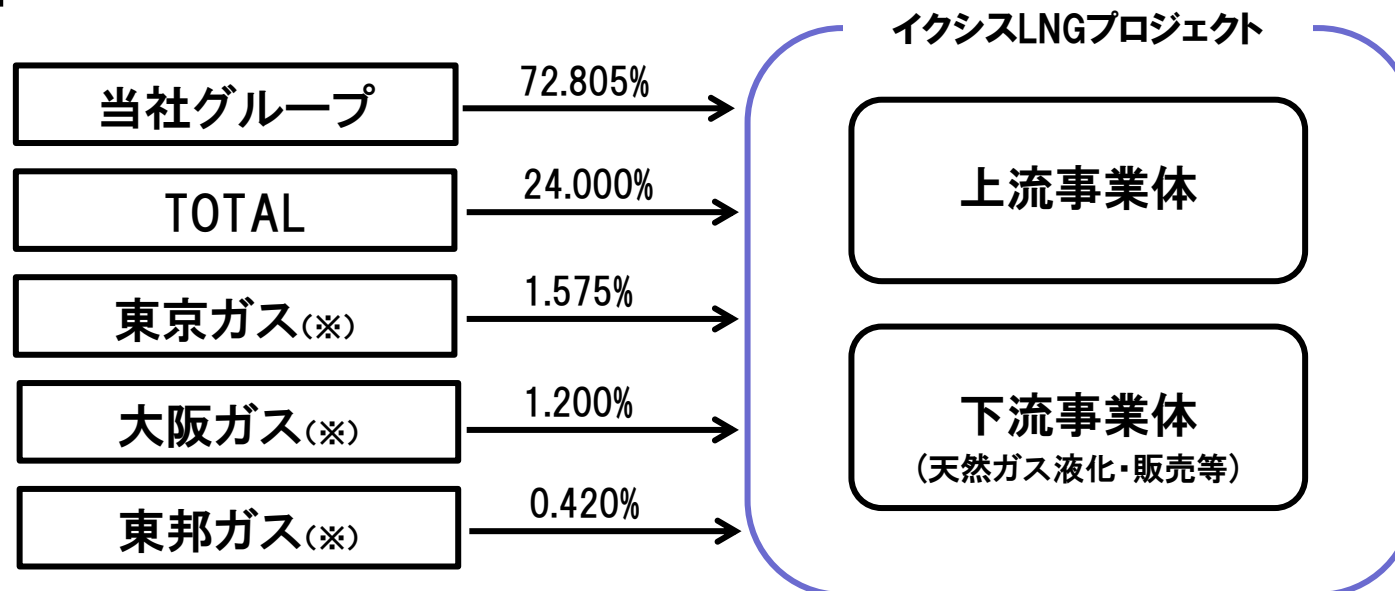
---

代表取締役社長  
北村 俊昭

# プロジェクトハイライト(1/2)

INPEX

- 2012年1月13日、最終投資決定(FID)を発表
- 生産開始予定：2016年末まで
- 生産量： LNG 年間840万トン(日本のLNG年間輸入量の1割強)  
LPG 年間約160万トン  
コンデンセート 日量約10万バレル(ピーク時)
- 権益比率：



(※)豪州政府当局による承認手続き中

- **マーケティング:** LNG年間予定生産数量 840万トンの全量の販売契約済
- **主要許認可:**
  - ✓ 環境、ガス輸送パイプラインのライセンス: 取得済み
  - ✓ 生産ライセンス: 近々取得予定
- **開発投資額:**
  - ✓ 340億米ドル(プロジェクト100%)
  - ✓ うち当社負担分(72.805%\*)は247億米ドル

\*当社イクシスLNGプロジェクト保有権益(プロジェクト全体の76%)のうち、既に大阪ガス株式会社(1.2%)、東邦ガス株式会社(0.42%)、東京ガス株式会社(1.575%)への一部譲渡について当事者間で合意しており、これら全ての譲渡に対する豪州政府当局からの承認をもって当社のイクシスLNGプロジェクト権益比率は72.805%。
- **ファイナンス**
  - ✓ 自己資金および外部借入(プロジェクトファイナンス等)
  - ✓ プロジェクトファイナンスの組成について、日・韓・豪・仏等のECA並びに日本、豪州を中心に世界の主要商業銀行と協議中
  - ✓ プロジェクトファイナンスを主体として1兆円程度の外部借入を想定

# イクシスLNGプロジェクトの特徴

**INPEX**

## ■ イクシスガス・コンデンセート田

- ✓ 低カントリーリスク地域(豪州)
- ✓ 高いレベルの生産量: LNGに加え、豊富なLPG・コンデンセート有
- ✓ 高ポテンシャルの周辺探鉱区

## ■ プロジェクトの進捗/成熟度

- ✓ 政府許認可取得済、信頼性の高いEPCコントラクター確保済、LNGの全生産量に付き販売契約締結済、ファイナンスに関しては十分な貸出意向を確認済
- ✓ 2010年5月発表のスケジュール変更(FID、生産開始をそれぞれ約1年間後ろ倒し)により、エンジニアリング作業、コスト見積もりの精度向上、地域社会との関係の深化
- ✓ 高いランプサム契約の比率

## ■ プロジェクトの推進体制

- ✓ アジア・オセアニア地域における当社の実績
- ✓ パートナー(TOTAL等)との協力
- ✓ 豪州連邦・地方政府のサポート

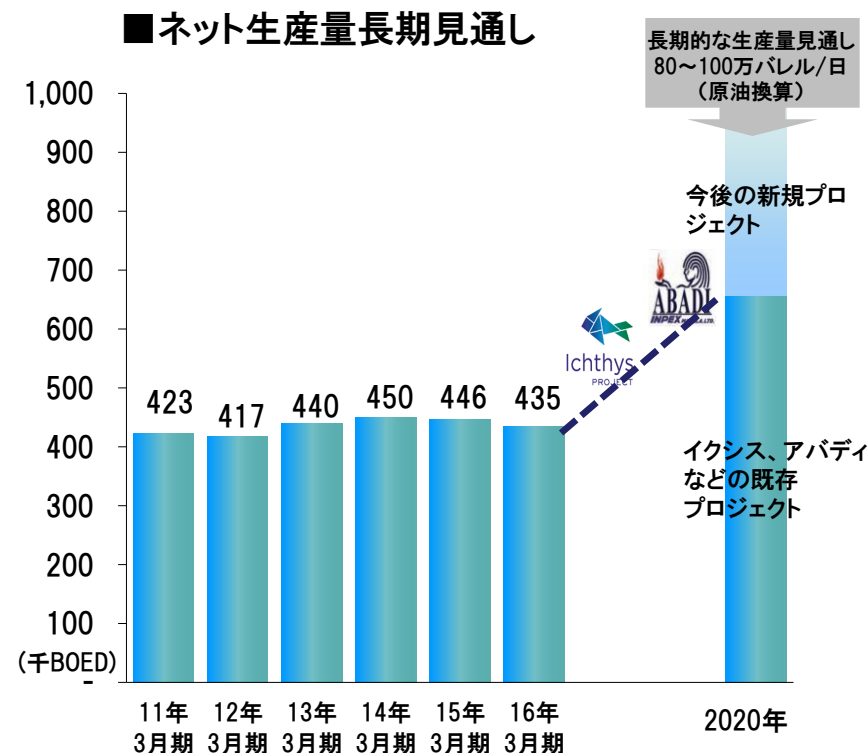


# イクシスLNGプロジェクトと当社の成長戦略 **INPEX**

## ■ 当社成長戦略への貢献

- ✓ 当社の中長期的な成長戦略における中核的プロジェクト（上流事業の持続的拡大、ガスサプライチェーン構築）
- ✓ 確認埋蔵量の拡大、RRRの向上、F/Dコストの改善
- ✓ 目標とするネット生産量日量80～100万バレル（原油換算）への貢献
- ✓ 長期安定的な収益に寄与
- ✓ イクシスの知見等をアバディなど既存/新規プロジェクトへ活用

## ■ ネット生産量長期見通し



注) 2012年3月期以降のネット生産量予測は、2012年3月期の業績予想と同じ油価前提を使用

## ■ コーポレート全体の投資額、7年間で総額約4兆円\*に変更無し

- ✓ 資金調達手段も変更無し

\*2011年3月期～2017年3月期の7年間に約4兆円をイクシス、アバディその他探鉱・開発プロジェクト等へ充当



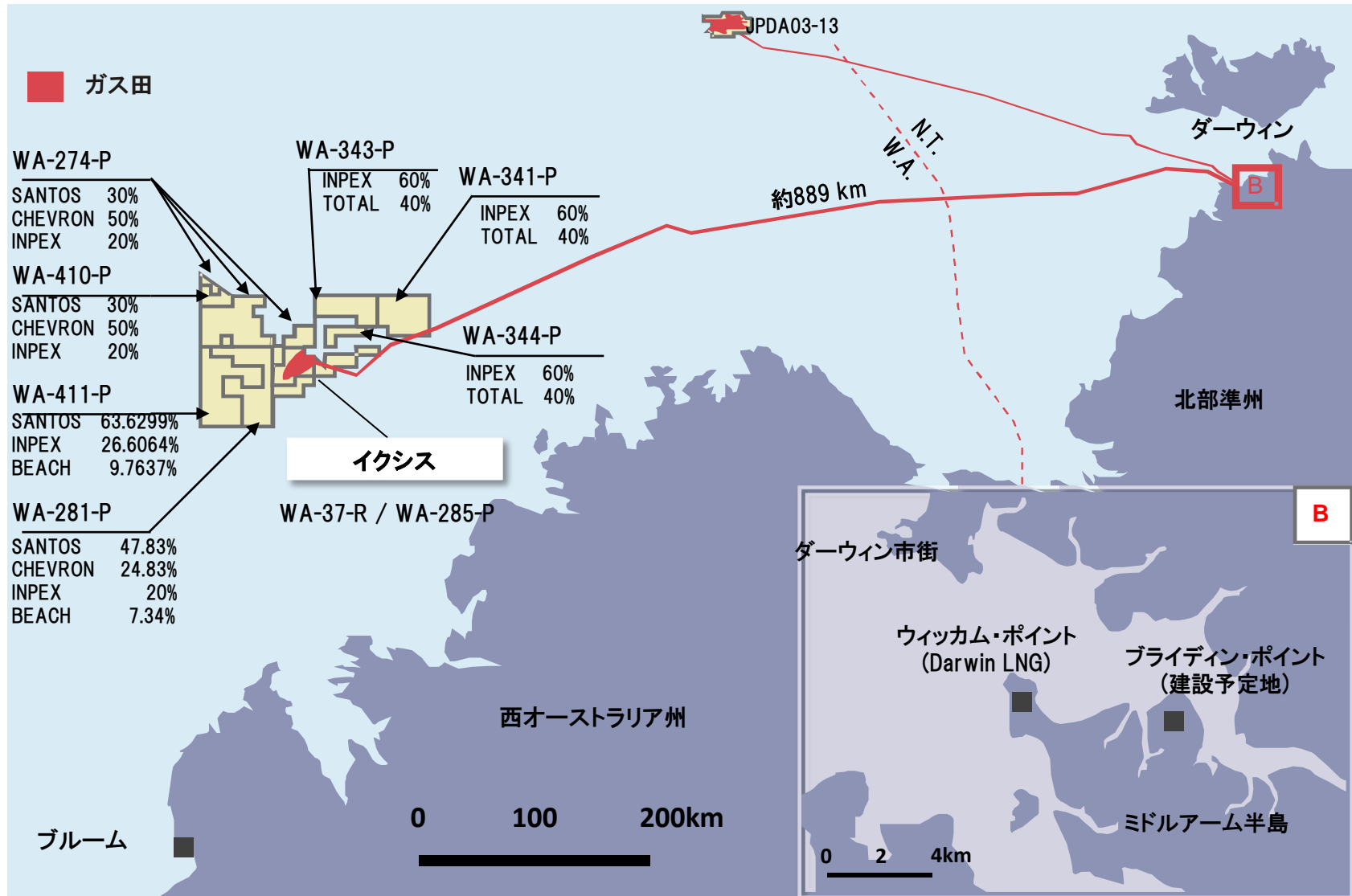
---

## イクシスLNGプロジェクトの概要

---

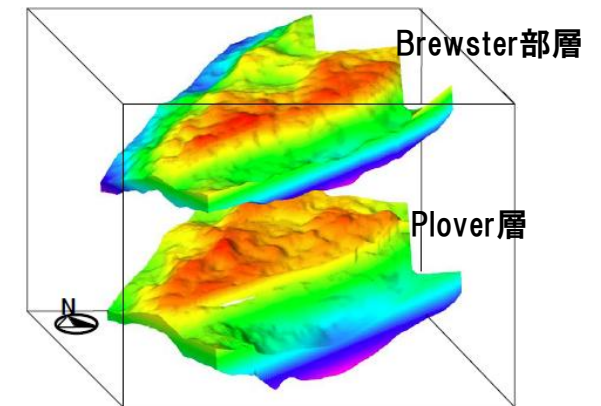
取締役 常務執行役員 イクシス事業本部長  
伊藤 成也

# イクシスLNGプロジェクトの位置



## ■ 埋蔵量:

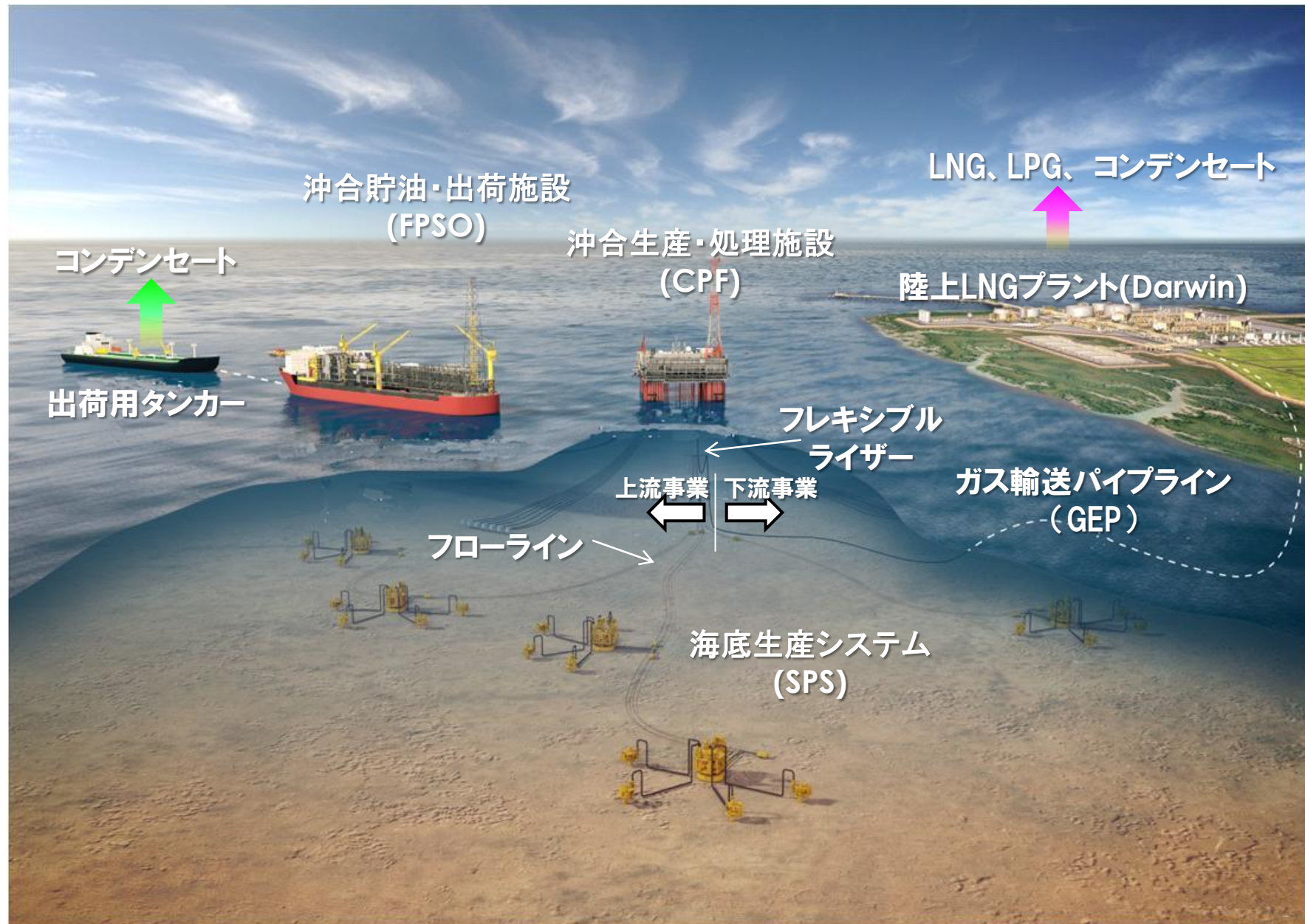
- ✓ プロジェクトライフ40年
- ✓ 年間840万トンのLNGを約20年の長期にわたり生産可能（以降緩やかに減少）
- ✓ 豊富なLPG、コンデンセート有
- ✓ 今年3月末日時点の埋蔵量評価において推定埋蔵量の過半を確認埋蔵量へ格上げ見込み



## ■ 生産量:

- ✓ LNG 年間840万トン
- ✓ LPG 年間約160万トン
- ✓ コンデンセート 日量約10万バレル(ピーク時)

# 開発コンセプト

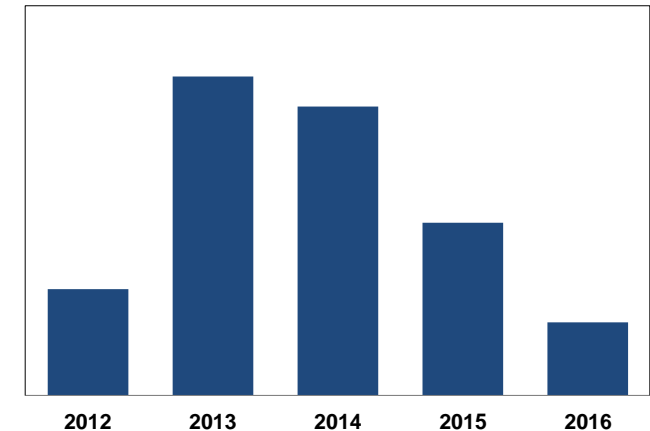


## ■ 開発投資

- ✓ 340億米ドル、うち当社負担分(72.805%\*)は247億米ドル
- ✓ 投資額の年次展開:右グラフ
- ✓ 高いランプサム契約の比率

\*当社イクシスLNGプロジェクト保有権益(プロジェクト全体の76%)のうち、既に大阪ガス株式会社(1.2%)、東邦ガス株式会社(0.42%)、東京ガス株式会社(1.575%)への一部譲渡について当事者間で合意しており、これら全ての譲渡に対する豪州政府当局からの承認をもって当社のイクシスLNGプロジェクト権益比率は72.805%。

■ 開発投資額の年次展開(イメージ)



## ■ 経済性

- ✓ 生産開始後長期に渡る安定的かつ大規模なフリーキャッシュフロー
- ✓ 十分な経済性(IRR)

# スケジュール

**INPEX**



▼  
**FID**

▼  
**生産開始**

ガス輸送パイプライン  
ライセンス申請手続き

◆ ガス輸送パイプラインライセンス取得(2011年5月)

環境許認可申請手続き

◆ 環境許認可取得(2011年5月/6月)

生産ライセンス申請手続き

◆ 生産ライセンスのオファーあり(2011年11月)、近々取得予定

沖合施設基本設計作業

沖合施設EPC準備作業

沖合施設の建造開始

生産井掘削開始

沖合施設EPC作業

陸上施設基本設計作業

陸上施設EPC準備作業

敷地整備等のオンショア関連作業開始

陸上施設EPC作業

貸出意向の確認

プロジェクトファイナンス

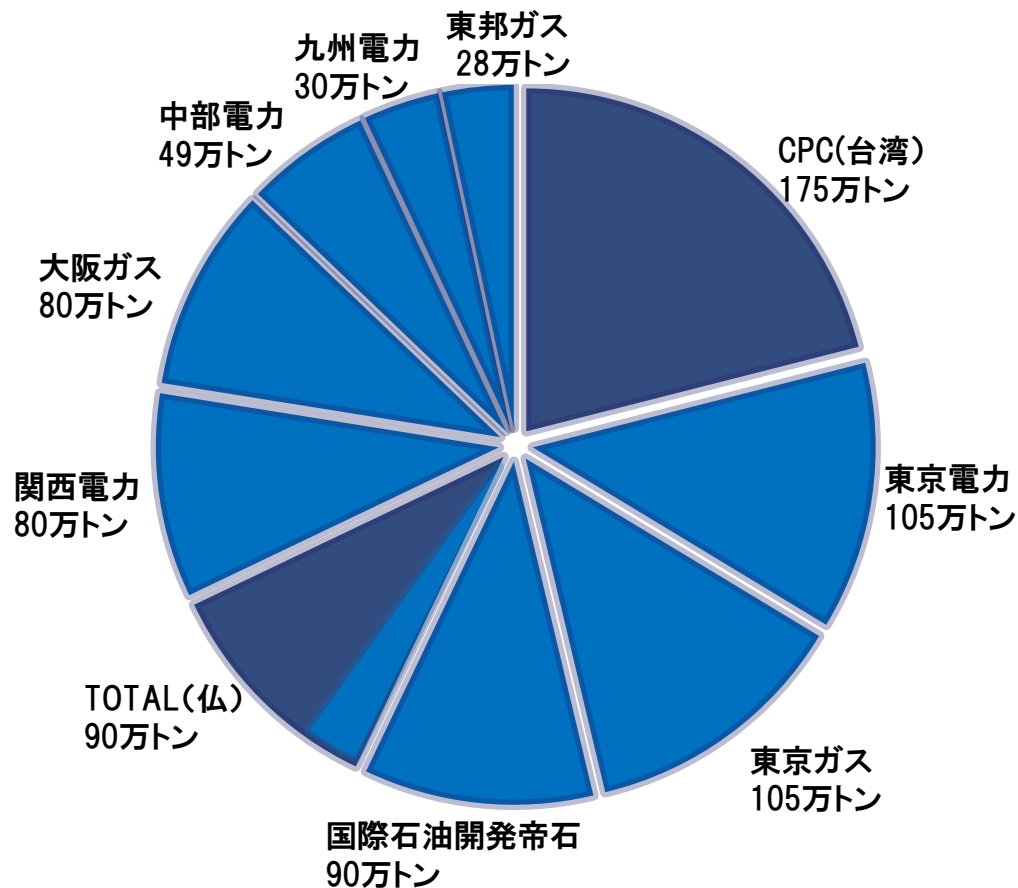
◆ 借入契約締結/借入開始

ガスマーケティング

◆ LNG購入コミットメント

# マーケティング

- ✓ LNG年間予定生産数量840万トンの全量について売買契約締結済
- ✓ それぞれ2017年から15年間の長期LNG売買契約を締結
- ✓ プロジェクトから生産されるLNGの7割相当が日本に仕向け
- ✓ LPG/コンデンセートは年間ターム販売契約およびスポット販売契約を前提に、アジア・太平洋地域に販売予定



## ■ 上流事業

- ✓ 沖合生産・処理施設(CPF): Samsung Heavy Industries(韓)
- ✓ 海底生産システム(SPS): GE Oil & Gas(米)
- ✓ フローライン、フレキシブルライザーなどの接続作業等: McDermott(米)

## ■ 下流事業

- ✓ 陸上LNGプラント: 日揮、千代田化工、KBR社(米)の企業連合
- ✓ ガス輸送パイプライン(GEP): Saipem(伊)・三井物産・住友商事・メタルワン



## ■ 環境への取り組み

- ✓ 環境および安全に対して最高レベルの配慮。安全を最優先
- ✓ 環境許認可：環境影響評価報告書(EIS)作成後、パブリックレビューを経て、2011年5・6月に北部準州政府、連邦政府より環境承認取得済
- ✓ 開発作業による周辺環境への影響の低減
- ✓ 沖合/陸上施設におけるエネルギー効率最適化、フレア量の削減等による温室効果ガス排出量削減努力
- ✓ 排出した温室効果ガスのオフセット手段として植林、地下貯留(CCS)、排出権取得等を検討中
- ✓ 植林に関しては、そのノウハウ蓄積、リスク分析のために豪州南西部にて645haのアセスメントプロジェクトを実施中



豪州南西部の植林地で生育したユーカリの木

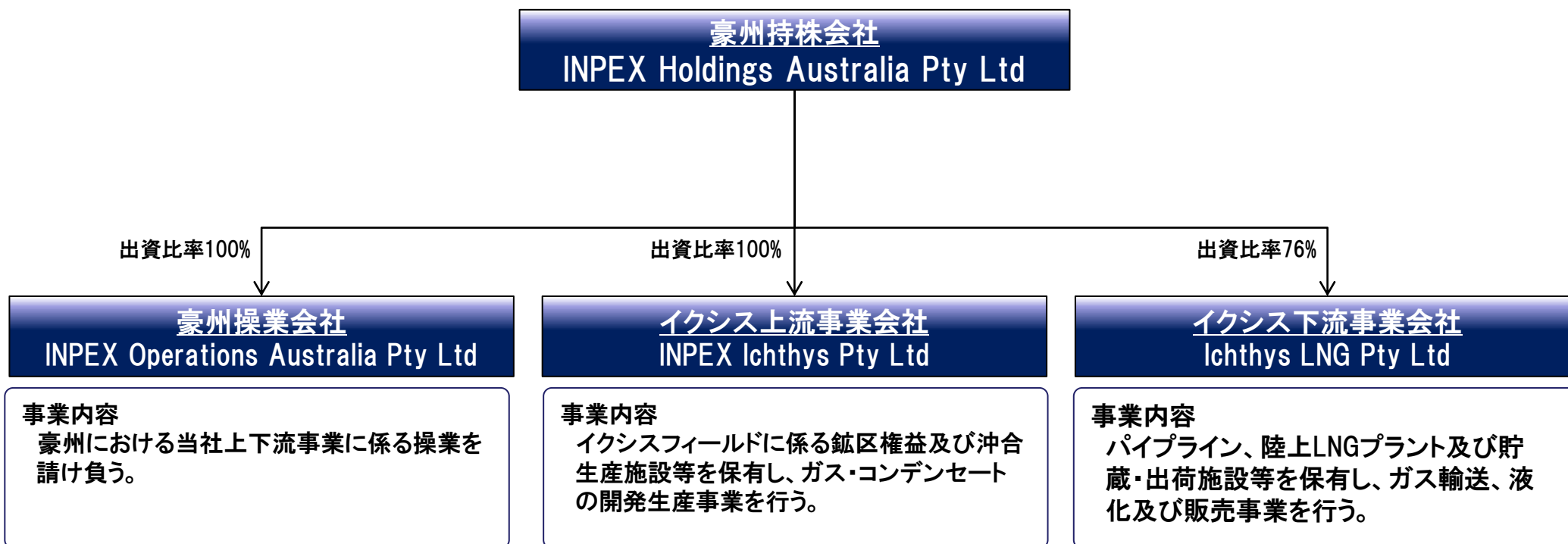
## ■ 地域貢献～ローカルコミュニティとの信頼関係の構築～

- ✓ 先住民を含む青年層を対象としたララキア職業訓練校の設立支援
- ✓ 豪州での雇用創出効果



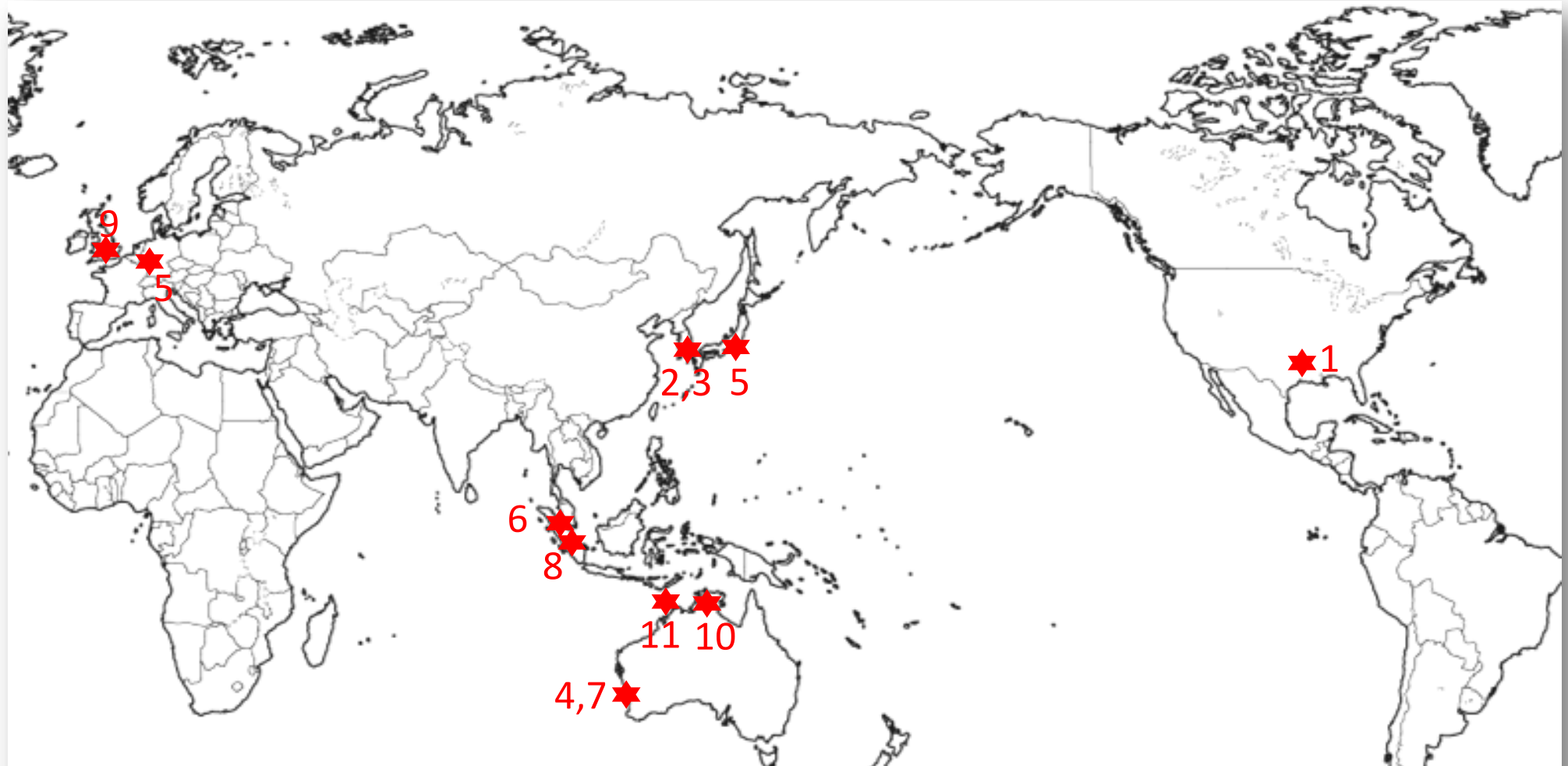
ララキア職業訓練校の様子

# 事業スキーム



注:上記出資比率は2012年1月24日現在

# 主なEPC作業候補地



1: CPF エンジニアリング	2: CPF Hull 建設	3: CPF Topside 建設	4: GEP エンジニアリング
5: GEP パイプ製造	6: GEP パイプコーティング	7: URF エンジニアリング	8: URF 機器製造
9: SPS エンジニアリング/機器製造	10: 陸上LNGプラント建設	11: Ichthys field	



**Ichthys**  
PROJECT

お問い合わせ先

国際石油開発帝石株式会社

経営企画本部 広報・IRユニット IRグループ

TEL: 03-5572-0234